

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月20日更新

事務事業名		認可外保育所助成事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	こども部	課長名	衛藤 和博
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	こども未来課	担当者名	江口 未来
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1184
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 3	事業連番 10576	根拠法令	合志市認可外保育所事業補助金交付要綱	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・認可外保育施設へ入所している乳幼児の健全育成を図るために、合志市内で保育事業を行う認可外保育施設に対し、補助を行う（事業所内保育所は含まない）。市内に住所を有している入所児童1人につき月額3,000円を補助する。認可外保育施設には多額の税金が投入されているが、認可外保育施設にはそれが無いため、認可外保育施設に通園する保護者会等からの要望等もあり実施されることとなった。 旧合志町で、平成11年度より、一人につき月額1,000円の助成で開始された。その後、平成15年度に月額2,000円、平成17年度に月額3,000円と増額された。 ・平成25年度から健康支援事業（児童分・職員分）を統合している。（県費補助あり）
【業務の流れ】	①補助金交付申請書（添付：補助対象入所児童名簿・歳入歳出予算書抄本）の受付、審査 ②交付決定通知書 ③事業の実施 ④変更交付申請/決定 ⑤実績報告書（添付：事業成績書・歳入歳出決算書抄本）の受付、審査 ⑥補助金交付決定通知書 ⑦請求書の提出 ⑧補助金の支払い
【主な予算費目】	補助金
【意見や要望】	認可外保育施設及びその保護者より、認可外保育施設の運営費との不公平感があるとの要望等があり実施された。平成14年度から毎年増額の要望があっている。 同様の事業を実施している自治体は少なく、実施保育施設からは経営的に助かり、より良い保育が出来るとの声が上がっている。 平成23年度「事業仕分け」において、当該事業について審議される中、補助額の増額等の意見もあったが、現状維持とすることとなった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 市内認可外保育施設1園に対し、保育所事業補助として対象児童1人につき月額3,000円、健康管理支援事業補助として対象経費の一部助成を行ったことで、保護者の負担軽減につながった。 実績：認可外保育施設事業補助金 実人数52人、延べ人数298人、健康管理支援事業 対象児童延べ29人、対象職員延べ5人		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 前年度同様に市内認可外保育施設への運営助成及び健康支援（職員・児童）事業を行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:認可外保育所助成事業実施施設数(企業主導型保育施設を除く)	園	
→イ:		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
・認可外保育施設		→ア:認可外保育施設(企業主導型保育施設を除く)
		→イ:補助対象となる延べ利用児童数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・認可外保育施設の運営環境を向上させる。		→ア:助成事業実施施設数
		→イ:
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア	園	2	1	1	1	1	1	1	1	
	イ										
② 対象指標	ア	園	1	1	1	1	1	1	1	1	
	イ	人	235	211	250	298	250	250	250	250	
③ 成果指標	ア	園	0	1	1	1	1	1	1	1	
	イ										
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円	29	40	173	48	173	30	30	30
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	692	667	1,527	936	1,527	700	700	700
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	721	707	1,700	984	1,700	730	730	730
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	300	90	65	90	65	65	65	65
		(B)人件費計	千円	1,173	342	258	327	258	258	258	258
トータルコスト(A)+(B)			千円	1,894	1,049	1,958	1,311	1,958	988	988	

事務事業名	認可外保育所助成事業	所属部	こども部	所属課	こども未来課
-------	------------	-----	------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の事後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した 市内認可外保育園1園に通所する児童が当初の予想より増えたため目標を達成した。
	② 6年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 企業主導型保育所を健康支援事業の対象外としたため、延べ利用児童数も減少し、目標達成は難しい。 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある⇒【理由】 この事業は市単独事業（健康支援除く）であり、近隣市町村で実施しているところも少なく、助成額も当初より増額されているので、妥当である。 ☒ 向上余地がない⇒【理由】
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 ☒ 他に手段がない⇒【理由】 他に類似事業がないため。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 税金の投入額として、認可保育施設の平均運営費一人につき月額約80,000円に対して、認可外保育施設は3,000円であり、削減余地はない。 ☒ 削減余地がない⇒【理由】
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 助成の手続きとしては、交付申請に伴う審査決定及び支払と実績報告に伴う確定事務という最低限の事務のため、削減余地はない。 ☒ 削減余地がない⇒【理由】
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 県に設置届を提出している市内認可外保育施設が対象であり、補助額算定は市内在住の入所者のみ対象にしているため、公平・公正である。 ☒ 公平・公正である⇒【理由】
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 保育施設が行う保育に対する運営費補助であり、役割分担は適正である。 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】

3 評価結果の総括（CHECK）

同様の事業を実施している自治体は少なく、実施保育施設からは経営的に助かり、よりよい保育が出来ているとの声があり、経営的に苦しい認可外保育施設に通園する児童の環境改善に一定の成果は見られる。しかし、認可保育施設に待機児童として入れなかった児童の受け皿となっている傾向もあり、その点を考慮すれば、補助額としては認可保育施設と比較すると少額である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												